

2人の対談は10月8日に飯野出張所の村長室にて行われました。全村避難の村を支える現職と、未来の村長を志す青年の飾らない言葉をお聞きください。

佐藤 高校時代は福島成蹊高校で、朝から晩まで勉強という生活。休みに実家に戻り村の自然に触れてリラックスし、また勉強に向かうという中で、村の暮らしが好きだと改めて感じ、村に貢献できる人になりたいと思うようになりました。

村長 佐藤君はモチベーションを高めようといういろいろなことをやっているようで、将来が期待できる若者という印象ですね。私は中学校から故郷を離れていたため、「故郷はいいなあ、また村で生活したいな」とは思っていました。村長になるとは全く思っていなかった。

佐藤 村長になりたいという夢はありますが、一番は村の復興なんです。

佐藤 僕もできることなら飯樋前田の家に戻りたいです。でも、村の存続が自分の中の最終目標にあります。そのことを考えたら、集約的に住むのがいいのかなと思っています。このようなことや、「その意識はどこからくるのか」ということも、東京大学の先生方と話し合っています。大学院に進学した後も深く学ぼうと思っています。

村長 先ほど言ったバランス感覚ですね。「俺は避難したくない」と言っている人もいるけれど、その人にとってはそこが自分の生活。首に縄をつけて集中する所に住みなさいとする訳にもいきません。そういう考えもあるし、そつでない考えもあるという、両面を考えられる人間にならないと、場合によっては、より良い判断にならないという恐れがある。

そういう考え方には人生経験も必要だし、佐藤君はいろいろな経験をしているから、自然と身に付いていくと思うけれども、常にある一点だけが正しいと考えては、場合によっては大変になることもあるということ。村に戻ってきて、皆と大いに議論を

その過程で最終判断をするだろう。村長になれたらと思っています。

村長 私は村長になった時に支持者から「公正無私」と書かれた額をいただきました。「私欲を捨てて公正に」ということと思いい、今も本庁の席の後ろにこの言葉を飾っています。

また、豊かな時代になり人の考え方が変わってきていますよね。さらに時には世界の動きの中でやっていなくてはならない。とするとバランス感覚が非常に必要になってくるのではないかと。柔軟性というのかな。そして親からももらった一つの命や持っている素晴らしいを生かすために、考え方の幅をどう広げていくか。この年でも努力だけは怠らないようにしなくてはいけないと思っています。

佐藤 今までは村内に点在して住んでいましたが、復興後の将来は、例えば福島市へのアクセスの良い所などに固まって住んで、インフラや行政上の負担、個人の通院や通勤・通学の負担がなるべくかからないようなあり方がいいのかと思います。交通の便が良くなれば、バスの便数

してもらいたいね。その中で自分も育つし、仲間をどんどん広げて、少しでも若い人たちに村に戻ってきていただけるような一つの動きを佐藤君に期待したいと思っています。

佐藤 村長の本を読んで、一番印象的だったのが「子どもの教育を行わなければ村の将来はない」と書かれていたこと。自分も教育は大事だと思っていて、とても共感しました。村長さんは、本の通りの印象です。いろいろな企画をされてきていて「きつと面白い方なんだろうな」と思っていて、その通りでした。あの本は本当に面白かった。自分は本が嫌いなんですけど、あつという間に読めました。

村長 本が嫌いでは駄目よ、好きにならないと。私も積読に近いんだが、いざという時に引き出せる本があるということ。ものすごくプラスになっていきますよ。

佐藤 村長として一番大変だったことと、一番うれしかったことは何ですか。

村長 一番大変だったことは、合併問

も増やせるのではないかと、また孤独死や獣害といった中山間地域の諸問題も減るのではないかと思っています。今の自分の中では村の今後のあり方の一つとして良いのかなと。復興案に書いてあるような形ですが。

村長 復興案は「集める」という形ではないんですよ。人それぞれです。「ここに集まって来てください」というのは簡単ではありません。例えば一人で生活できない人にはグループホーム的な所が必要になるかもしれないけれど、「効率が悪いかから別のところがいいですよ」という話では、人の心をどれだけ拾ってあげられるかと。そこが難しいところですね、効率だけでは進められないですね。

題を乗り切って村を残せたということと、それから今どうやって村を再生させるかということですね。良かったことは、小さな自治体の長だから、思ったことが10のうち3つでも3つでも実現できて、それが自分の達成感だけでなく、住民に「ああよかったな」と言われた時が一番、村長としても人間としても満足だなという思いがあるね。

若いうちは失敗もプラスになる可能性がいっぱいあるからね。頓挫するのでも大切って気がします。私もいっぱい失敗はやっている。失敗したり怒られたりしながら、そういうのが少しずつ血となり肉となるから。

佐藤 ありがとうございます。今のうちにいろいろなことを経験していることと思います。



菅野典雄・かんののりお

昭和21年生まれ。佐須の実家で酪農を営むかたわら平成元年から村公民館の嘱託館長となる。平成8年より飯館村長。原発事故による全村避難に村長として対応を続ける。



佐藤聡太・さとう そうた

平成4年生まれで前田・八和木の出身。現在は宇都宮大学農学部の4年生で、来春から東京大学大学院に進学する。故郷に貢献する職業に就き、将来は飯館村長になることが夢。